

発行10号記念特大号

HEART to HEART

Q&A

INFORMATION

9~10月こうのとり外来の成績

tea time

編集後記



このとり相談室がオープンして1年9ヶ月が経過しました。医者をやっているいつも感じることですが、医者は新しい患者さんに出会ってその実力が伸びます。自分がわからないその患者さんの問題を解決しようとするために新たに勉強するからです。私はそうして現在に至っています。このとり相談室も同様です。試行錯誤、手探りしながらの1年9ヶ月でした。多くの患者さんに成長させていただきました。ありがとうございます。まだ、相談室を訪れた10人が10人とも満足して部屋を後にしているわけではないと思います。更に多くの患者さんに心の安らぎを感じていただけるよ

HEART to HEART

倶楽部kounotoriもお陰様で発行から10号目となります。相談室が立ち上がって一年九ヶ月。皆さんに育てて頂いた私達です。今回は特別企画として、相談室にかかわっているスタッフの座談会を企画致しました。相談室発足の経緯から、それぞれのスタッフの思い、今後についてなど私達のありのままの気持ちを掲載させていただきます。

『相談室のスタッフの思い、聞いて下さい』

【相談室立ち上げのいきさつ】

小林 私と渡辺さんが、ある患者さんのケアについて話しをした事が直接的な行動のきっかけだったんだよね。この外来に患者さんが気軽に話せる場所があればいいねって。

渡辺 私はずっと育児支援の部署に居たから現在不妊治療を受けている方々との接点は全く無かったんだけど、いわゆる治療経験を経た方々からは治療中の思いを聞く機会があって。やっぱり治療中、とっても誰かに話しを聞いてもらいたかったっていう言葉、多く聞いていた。だけどどうするって事もできないまま日は過ぎていたんだよ。

小林 そして、思い切って吉川先生に聞いてみたんだよ。相談室、作ってもいいでしょうか?って。そしたらすんなりといいお返事が返ってきて。治療全般の不安は私、そして体外受精部門からは、一通りの技術と知識を持っていて患者さんの心のケアに関心を持っている人って事で高橋さんに決まり。そこから3人で、どんな相談室にするかって計画立てが始まったんだよ。治療していた患者さんにも協力してもらって。どんなサポートが欲しかったかって、それを絶対基本におこななきゃ意味ないから。

高橋 そうです、そうです。渡辺さんはこっちの分野には全く接点無かったから、まず培養室に体験入室してもらって。肝心の見てもらわなきゃの事じゃない方ばかりに目がいつちゃったりしてて(笑)そして不妊治療全般の事や外来の流れ、患者さんの様子等を小林さんから教えてもらい、カウンセリングについては渡辺さんにとって、みんなで自分らの専門についてレクチャーしあった。ほぼ毎日、午後時間作って。よくやりましたよねえ。
渡辺 本当にこの二人はよく勉強してくれた。カウンセリングって単に知識や技術だけの世界じゃなくって、話しが聴ける、いわゆる傾聴できるって事が何より大切な事だからそれを理屈抜き、心で学ぶってあの短期間にあそこまでできた二人にはつくづく感心した。

【2003/3/3いよいよ相談室が始まる】

小林 言い出してから5ヶ月、トントン拍子に進んで行ったよね。勉強と併行して部屋の準備もできて。キリのいい4月からって言ったのが、体制できたのならば3月3日、月曜日にスター

ト。

渡辺 外来はすごく混んで忙しなのに私だけ部屋でちんまりとしていてとっても心苦しかった。途中で小林さんに、"ねえねえ、誰か連れてきて"なんてお願いしていた。(笑)そして入ってきてくれた一人、初めてのカウンセリング、忘れられない。緊張〜って感じ。

小林 私だって初めての時は正直気持ち悪くなった(笑)治療不安答えますって言っても、もし、自分の答えられない知らない事尋ねられたらどうしよって。あと、自分の答えがその人の人生に影響するようだったら、どうしよってそんな怖さもあったよ。

高橋 それは私も同じです。当初はステップアップ時には呼ばれなかったから、私の登場するのってとっても少なかった。たま〜に呼ばれるから、ど緊張で構えちゃって。小林さんの言ったように、質問をくれた患者さんに答えるっていうのは、この先を方向づけるって意味合いもあるんだけど、あくまでも私達は情報提供をするっていう所にとどまらなきゃ、患者さんの気持ちまでも決めかねちゃう立場にもなり得る。だからこそ、その所はしっかり気をつけて話をしなきゃと思いました。説明は説明。その区別はカウンセリングの本質を知ったお陰で良かったかもって思いましたよ。自分自身においてもカウンセリングの事を知ってパーソナリティーチェンジが起きた気がする。

小林 うんうん。スッキリしましたって言われた時、ああ役に立てたんだってうれしかったし、普段外来でバタバタしているから、予約なんかでゆっくり話してみたりすると、患者さんの思いとかも今更ながらよくわかったし、患者さんとの距離が縮まった気がしてた。

高橋 前は私達培養士って胚移植の時位しか直接お話する機会が無かったから、名前覚えてもらうだけでうれしかったのにすっきりしましたありがとうございます、なんて言われると、もう、うれしいがう〜んとうれしいになった。

渡辺 私は資格とってあったけどここで初めてカウンセラーとしてやる事になったもんだから、うんと気負いがあった。とにかく話して話してみたいな。廊下に出て呼び込みこそしないけどすごく押しつけがましかったと思う。カウンセリングの良さをどうにかして伝えたい一心だった。だから入ってきてくれた人に必要以上に思い入れして話してくれる人と一緒に常に泣いてた。話しへの共感だけじゃなく、余計な自分の中のモード入れ混んじやって。あの頃の方、ゴメンナサイ。

小林 でも、渡辺さんには私達とは違ったものを患者さんは求めているから。喜びを分かち合いたいとか、ちょっと顔みるだけでいいとか。相談室閉まっていると残念な顔して帰る人達居るもんね。

渡辺 ありがたいよ。それが段々に分かってきた。私はとにかくここに居ることに意義があるんだって。同じ顔が常にそこにいけば居る事の安心、心の拠り所みたいなのかな。何を上げておくとかそんなんじゃないんだよ。相談室の上の看板に警備員室ってまだ書いてある。あれ、有る意味そのままでもいいのかも。(笑)

【一年経って少しずつ見えてきたもの】

小平 私がここに関わりを持つようになったのは1年と少し経ってから。ステップアップ相談をもれなくやっていくようになってからです。患者さんと直接お話する機会としては本当にそれ





ちょっとお茶でもいかがですか？
日頃皆さんの思っている事やつづ
やぎをのせていくコーナーです。

🌸 K・Aさん 🌸

結婚後夫の転勤で海外に住むようになり、生活も落ち着いたころ、子供が欲しいと思うようになりました。しかしなかなか授かる事が出来ず、現地の病院に通い始めました。私の病院デビューは海外でした。しかし現地では大きな総合病院に行けば日本語通訳はあるものの、担当ドクターのクリニックには通訳はなく、ただでさえ不妊という難しそうな(?)内容に加え、語学堪能ではない私にとって海外での病院通いはかなりの気合いを必要とし、不安やストレスを感じることもありました。1年ほど通った頃でしょうか、ドクターの方から体外受精の話がでたのです。自分自身も行き詰まっていた頃でしたのでステップアップに戸惑いはありませんでした。夫とも相談し費用的な面、そして言葉や精神的な面から体外受精をするなら日本で、と考えました。

それから日本の病院探しが始まるわけですが、その手段は限られていました。インターネットです。海外生活において私にとってインターネットは不可欠です。住んでいる場所に特定されることなく、好きな時間に多くの情報を得ることができ、実は現地の病院に通っている時から不妊の情報はほとんどインターネットから得ていました。そして実家のある長野県下の病院を探してすぐにヒットしたのが、諏訪マタのHPでした。諏訪マタの名前は子供が欲しいと思う前よりももちろん、独身時代から知ってはいましたが、まず、諏訪マタのHPの情報量の多さに驚きました。治療方針から治療方法まで知りたいことが細かく書かれていたのです。隅から隅まで読ませていただいた後、こちらのクリニックで治療を受けてみたいと思いました。

早速HP上から無料で相談に乗って下さるといこうのとり相談室にメールを出し、現状や今後の希望などを伝えてみました。海外に住んでいるため、治療を一時帰国に合わせるなどまず時間的な相談が必要でした。すぐにお返事をいただきそこから相談室とのお付き合いが始まったのです。「いつでもいらしてください」と言っていたときは見ず知らずの私を温かく受け入れてもらったような、そんな気持ちでとても嬉しかったことを覚えています。それから何度ものメールでの相談にいつも的確なお返事をいただき、諏訪マタで治療を受けたいという私の気持ちは強くなっていきました。そして初めて相談室のドアを開け、メールの窓口であったカウンセラーさんとお会いした時、初めてお会いするはずなのに初めてという気が全くしなかったのです。それまでの何通ものメールが心の距離も縮めてくれたんでしょう。ほっとする空間がそこにはありました。

諏訪マタに通い始めて何よりもすごいと感じたのは、私が海外から出したメールでの現状や相談内容すべてを、既に先生を始め看護師さんらが理解して下さっていて、初めての診察の日、改めてこちらから説明をすることがほとんどなかったことです。普通はドクターや病院が変わればまた一から現状の説明をし直さなければならないのですが、不妊治療の辛いことの一つと言えばデリケートな夫婦関係を他人に説明しなければならなく、でもそれはとても苦痛なことで、その時も説明することは覚悟していたのです。後から知ったことですが、相談室へのメールはその内容によって先生や看護師さん培養士さんカウンセラーさんがお答え下さっていたとのこと。患者に対する先生を始めスタッフの皆さんの真摯な誠意を感じました。また毎月開催されているという体外受精の説明会では先生から直接説明を聞く事ができ先生のお考えを知る事ができました。そしてこの病

院を選んで間違いなかったと嬉しく感じました。

そして初めての体外受精に臨むことになったのですが、診察の後、相談室に寄るのも私の楽しみの一つとなりました。特別な深い悩みがあるわけでもなく落ち込んでいるわけでもなかったのに、なぜか相談室に寄った後は心が軽く明るくなるのです。不思議でした。そして診察中に先生に聞きそびれてしまったこと、診察が終わって相談室で話しをしている間に出てきた疑問にはすぐに培養士さんや看護師さんを読んでくださり、お忙しい中その度に皆さん親切に丁寧に説明をしてくださいました。そのおかげで不安なく採卵の日を迎えることが出来ました。

またある日、治療途中で一時海外のアパートに戻っていた時のこと。突然基礎体温のことで問題ができてしまいました。日本行きの飛行機チケットは既に数日後に予約してあり日本で診察を受けるつもりでしたが、もしかしたら治療は延期?という不安の中、慌てて相談室にメールしたのです。するとすぐお返事をいただき、先生からの「大丈夫です」というなんと心強いお答え。何百人もの患者さんを抱えていらっしゃるにもかかわらずすぐにお返事下さったことはもちろん、先生のその一言も嬉しくて、海外のアパートで私は何度もそのメールを読み返しては小躍りしていたのでした。患者にとって先生の一言は本当に偉大です。

現地での生活も、もともと海外に住んでみたいと思っていたわけではなかったのに、異文化に最初は戸惑うことばかりでしたが、今では行ってよかったと心から思えます。そのことと不妊治療も同じようだと感じるのですが、自分が予定しないことに出会うことは、時として予定外の苦労もしますが、予定外の楽しみや喜びにも出会える、それもまた楽しいじゃない、と30歳も過ぎたからでしょうか、そんな風に思えるようになりました。治療中は夫とは離れ離れの生活でちょっと淋しいですが、海の向こうで見守ってくれている夫がいるからこそ頑張れます。これからも海外生活も楽しみながら日本での治療も続けていきたい、どちらか一つを選択しなければならぬのではなく、バランスを取りながら両方を続けていきたいです。

医療は最先端、スタッフの皆さんはアットホームで明るく温かい方々の諏訪マタ。私はまだお世話になり始めたばかりですが、自分が信頼できる病院に出会えて本当によかったと思っています。たとえ少しくらい距離が遠くても‘信頼できる’ということが大切なことだと思うのです。初めての体外受精は残念なことに移植見送りとなってしまいましたが、きっといつかこのとりがやってくる、そう願っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。

🌸 T・Nさん 🌸

私は愛知県から諏訪マタに通い、顕微授精で妊娠に成功して6月に女の子を出産した者です。今は慣れないことばかりで大変ですが、頑張って子育てしています。

子供が欲しいのに妊娠しない事に不安を抱き、地元の産婦人科に近くにある不妊治療専門の病院を紹介されました。

検査をしてみると、このままでは自然妊娠は無理で顕微授精をするほか妊娠は出来ないといわれ、私達はショックを受けながらも、これから先長くなるかもしれないのだから、病院はもっと技術も設備も整ったところに変えようと思いました。その事で母に相談してみると、知り合いの方が諏訪マタの根津先生を紹介してくれるかもしれないと言われました。

諏訪マタなら私が結婚する前、たまたま観ていたテレビで根津先生が「一匹でも精子があれば妊娠できます」みたいなニュアンスの事をテレビでおっしゃったのが印象に残ったので、もしそこでお世話になれるのならと藁にもすがる思いで主人と二人で諏訪マタに伺いました。

目の前にいる根津先生に「先生、私は絶対妊娠できますか？」と私は質問しました。今考えたら何て失礼な質問をしたのだろうと思うんですけど、先生はその時「絶対妊娠します。そう信

じてやっていきましょう」と答えてくれました。私は嘘でも良いからその時「YES」といって欲しかったのです、本当に救われた気分でした。そしてこの病院がいつべんに好きになり、先生達についていこうと決めました。

愛知県から諏訪マタまで車で2時間ちょっと。主人は忙しかったので、それまで近くのスーパーの買い物の時しか運転しなかった私が一人で通う事に。時には週に3回通い、その合い間には仕事もしていたので忙しくなりましたが、これを小旅行と思って帰りにお蕎麦を食べたり、諏訪湖を見に行ったり。

一回目の体外受精は採卵に失敗。二回目に成功し妊娠しました。妊娠した事が分かった時は飛び上がるほど嬉しかったです。でも流産の事がどうしても頭から離れなくて誰にも言えずにつわりを我慢したり、お腹が大きくなっても素直にマタニティーウェアを着ることが出来なかったり、自分が妊娠している事に自信が持てず妊娠中も大変でした。それでも無事出産を終える事が出来てほっとしています。そして吉川先生や根津先生をはじめ諏訪マタの沢山のスタッフの方に助けられてここまで来れたのだと思い、感謝の気持ちで一杯です。

🌸 Y・Sさん 🌸

結婚して2年目のある日、生理が不順だったので、将来の子供のことを考えると、一度ちゃんと診てもらった方がいいかもという漠然な気持ちで、諏訪マタを訪れました。受付で、この病院には不妊の専門の先生がいるからと言われ、こうのとりの外来へ行きました。不妊？私が？まさかという思いで診察を受けましたが、タイミング療法ということになりました。諏訪マタに通い始めて2ヶ月目に夫と口論になりました。夫は吉川先生から教えてもらった日にタイミングを持つことが受け入れられずにいたのです。夫の言うことは理解できました。自然に行こうとか、そのうち出来るよとか、子供は神秘的なもので作るのではなく授かるものだと。私も実際、同感です。でも子供が欲しいと言ってから1年たって、何も変わらない状況であれば、一度検査したほうが良いと何かの雑誌に書いてあったので、諏訪マタを訪れたのです。私が通院することに対しては夫も理解を示していたのに、指定された日にタイミングを持つということに、ただただ拒むのでした。

このはじめての治療に対しての口論で、いろいろな検査を受け頑張っているのに、どうして分かってくれないの？子供がほしくないの？溢れる涙を止められなく、夫が理解してくれないことに悲しみが頂点に達してしまいました。私はこの人とこれからもやっていけるの？自問自答するくらい頭がパニックしてしまいました。私は泣きながら、早く子供がほしいと切々と訴えました。私の想いをじっと聞いた夫は、今後は協力してくれるということになりました。それから毎月、タイミングを行ってきました。

8ヶ月を過ぎた頃、生理は来ないけど、基礎体温は低いという状態が3ヶ月ほど続き、いつ病院へ行けばいいのか分からず、そのままでした。毎月の通院をしなくなると、なんとなく治療するのが嫌になり、さぼってしまいました。治療に思いつめ、毎日が悶々とした日に少し疲れてしまったのです。誰にも話せない、誰も聴いてくれない、2人の子供の為なのに何故か自分だけ頑張っている気がするということに、私はどうして？どうして？と思う日が続きました。今思えば、少し鬱（うつ）状態だったかもしれません。

そして1年3ヶ月ぶりの今年3月に再通院することになりました。その時、看護婦さんから「こうのとりの相談室が出来たんですよ」と教えてもらいました。当時は忙しかったこともあり、存在は知っていたものの、訪れる機会がありませんでした。ある時、素朴な質問がいろいろあり、どこで調べればいいのかだろうと考えたとき、メールでも相談が出来ることが知ったのです。登録を済ませ、メールのやりとりが始まりました。他人が聞けば、バカバカしいことだったかもしれませんが、一つ一つクリアになり安心出来ました。そして、ある時ひょんなことから、カウンセラーの方と話す機会が持てたのです。せっかくだから

と相談室へお邪魔させて頂きました。

はじめは治療についての不安を話していたつもりが、だんだん機関銃のように自分の不妊に対する気持ちを話しはじめ、不妊について自分は大丈夫と強気でいた自分が素の自分に戻れた気がしました。今までの自分の気持ちを嘘偽りなく話すことによって、泣いちゃダメ泣いちゃダメと目に溜まった涙をこぼさないようにと、上を見上げながら話していましたが、とうとう溢れてしまいました。友達にも話せない、親と離れていて心配をかけたくないという思いで、自分ひとりで背負い込んでいました。それをカウンセラーの方に聞いてもらえて、この2年半の間に溜まっていたものが吐き出されていく感じでした。話すことでとても気持ちがすっきりしました。今ではなんでもっと早く訪れていなかったのだろうと後悔しています。私の気持ちを聞いてくれる人が居る。それだけでどんなに安心するのでしょうか。

診察を待っている間に、倶楽部Kを読むと涙が出てきそうになります。少しだけ読んであとは、家に持ち帰っては思う存分泣きながら読んでいました（笑）。羨ましい涙、良かったねと嬉し涙。胸が締め付けられる涙いろいろありました。倶楽部Kを読むと、私だけが頑張っているんじゃないんだ、同じ思いの人がこんなに居るんだと思うと、私だけが不幸と思いついていた自分がだんだん恥ずかしくなりました。

一時期、友達の妊娠を素直に喜べない自分がありました。自分をよく見せたく、言葉ではおめでとうといっているのに、心の中にはいろいろな思いが渦を巻いていました。そんな自分に嫌気がさし、自己嫌悪に陥ることもしばしばありました。それも今では少しは心穏やかになりました。素直に友達の妊娠を喜び、生まれた友達の子供に会わせてほしいと思えるようになりました。結婚して3年。両家の親も孫の顔を早く見たいと言いつつ出しています。でも私は「そうですね～」としか返答していません。別に治療していることに劣等感があるわけではないのですが、親に心配をかけたくないのです。私もいつか子供を授かることが出来た時には、不妊治療のことを話すことが出来るのかなと思っています。次のステップに進むのかどうかは、未定です。あまり思い詰めないで、頑張っていこうと思います。いつか家族が増えることを祈って・・・。

🌸 K・Kさん 🌸

二人目が中々できず、友人に"諏訪マタはいいよ"と紹介されて夫婦揃って行く事を決めました。診察が終わり、相談室を案内されそこへ入るまでは色々な事に対してとても不安でいました。ソファに座り、今までの自分の中の思いを話している内に私は涙が溢れてきてしまいました。なるだけ夫に迷惑をかけたくない、出来ることは一人で頑張ろうとして来た私でしたが本当はもっと夫に私の悩みや不安、苦しみを知って欲しかったし、聞いて欲しかったのだと気づきました。コミュニケーションが取れているようで取れていなかったのだとも思いました。

しかし今は違います。私達はあの日を境にして、夫婦間について大切すべきものを見つめ直す事が出来ました。夫も、"日々の忙しさのあまりに私と向き合う事もせずに来てしまったが、まず夫婦という単位が基本だと言われたことでとても考えさせられた"と言ってました。今までずっと悩んできていた事が嘘のように楽になり前向きに考えられるようになりました。このとり相談室に出会えて本当に良かったです。私の周りにいる同じように悩んでいる友達にも早速この話をしました。話して聞いてもらえるとホントにすっきりする、自分の心に気付けるんだよって。

までは無かったから、とにかく緊張で。初めての説明の後は自分の答えた事が大丈夫な内容か心配でみんなに聞きまくりました。先生にも確認した位。言葉の責任ってのを痛感しました。

小林 わかるわかる。私もそうしたもの。

高橋 不安になっちゃうもんね確かに。私達にとってはなにせ初めての体験だから。



保科 私も初めての時は頭真っ白だった。あれで良かったのかなあってずっと考えてしまった。

小平 その場で絶対答えねばって思い込んでいたけれど、答えられない内容の質問もあった。その時は次回必ず調べておきますとか、少し時間を頂く事も逆にいいのかと思った事もあった。自分の力以上の事は無理だから、正直にやっていけばいいんだって思ったら段々不安が減ってきて。

保科 患者さんの、質問したいって雰囲気や圧倒されちゃってオドオドしてしまいがちな私だけど、分かる事はしっかり言いかけた方が患者さんは安心するんだって事も徐叙に分かってきました。

【相談室スタッフのチームワーク】

小林 そう言えば思い出すなあ。最初の頃、体外受精に関する治療不安だったから、高橋さんと一緒にやってただけど、質問され答えてってやっていっても患者さんの顔つきが全然変わっていかない。そして二人して部屋を出て、渡辺さんにタッチしたら二人で対応してても見られなかった変化が起きて・・・

高橋 それありましたね。私達いくらカウンセリングの勉強させてもらってもやっぱり駄目～渡辺さん～って時。

渡辺 いやいや、それは私も同じ事だよ。何とかカウンセリングの域でならないかと思って対応していても、心レベルの受け止めだけではすまない、きちんと説明をきいて納得して、そこがやっぱり根底なんだなって思った事は一杯ある。だから、私達の相談室はチームで!っていう姿勢、絶対にこれにつきるって思うよ。全国の病院でいろいろなメンタル支援がやられている今、他施設での取り組みを聞いてもある程度自信持って帰って来るよ。たまたま患者さんのKさんが学会発表聞きに来てくれた時にもそう感想を言ってくれた。諏訪マタの相談室って一歩も二歩も先行ってるって。自分達の治療環境ってとても恵まれている事痛感したって話し。その言葉はうれしかったなあ。

小林 私もこの間の不妊学会で聞いてきたんだけど、不妊治療を受けてる患者さん達は、不妊治療に関わる事によって神経質にならざるを得ない状況になっちゃうんだって話し。周りからのプレッシャー、家庭の中での問題、住んでいる環境や、医療機関でのスタッフの対応など様々な要因。元々何か心にあったんじゃないかって治療によって傷ついてしまったみたい。だから、何も言わなくてもただ隣にいてくれればいい、自分の思い分かってもらうだけでも随分楽になれるって、そんな患者さんの生の声聞いてきた。ここはまさにそうだよな。

それプラス時々の患者さんの気持ちや求めているものをちゃんと判断して、私達スタッフのどの専門性をもって心の重しを取り除けるかって、臨機応変に対応する。

中島 相談室が立ち上がってじきにお休みに入り、復帰して今まだ始めたばかりだけど、前より相談室いかがですかって勤めやすくなった気がする。最初の頃はチラシ渡しても反応が薄かった感じだけど、今は出入りが激しくなってきたから、患者さんも慣れてきたのかな。初診とステップアップの方はもちろん相談室を通ってもらうようにしてそれは良かったんだけど、長く治療してい

る方達には中々お伝えするチャンスがないかも。

渡辺 それはやっぱり、その人達のタイミングだよな。入って来たい時に入れる時なんだろうと思うんだ。私は毎日、どんな方がノックしてくれるのか、待っているのもお仕事。ただ、私の代わりの人がいないのでちょくちょく部屋が閉まっていたり、混んでる時はジャストフィットにお会いできない事もあって。それはゴメンナサイなんだよなあ。

小林 うん、でも今は渡辺さんしか居ないからそれは仕方ないよ。

【みんなの願いと相談室のこれから】

渡辺 私は自分の仕事の中で日々の出会いはもちろんだけど、倶楽部K、これを作るの、とても大事に思っているんだよ。私が相談室に来てくれる患者さんにホント、パワーをもらうんだよね。とても一人で聞いただけだともったいないって、そんな思いを改めて言葉にしてもらってあそこに載せている。偶数月の頭に出してるんだけど、出したばっかに待合の椅子の所で座っている患者さん達が一斉に新聞拡げて読んでいる時なんかもたまにあって、それは泣いちゃいそうになるよ。皆さん一人一人の思いで手にしてくれているんだろうけど。紙面を通じてだけど、何かしらこの患者さん同士が繋がっているみたいな気持ちになる。

高橋 確かにこの新聞はいいですよ。どんどん出てくとうれしい。

小林 うん、これは最初から出していこうっていついたものだったよね。内容も私達の相談室ならではの感じ。

渡辺 編集後記が結構受けているんだよ。スタッフがとても近く感じられるって。だから今回は座談会をまんまで載せるって事してみたんだ。さて、そろそろ紙面的に締めに入った方がいい(笑)。これからの相談室への思いをみんな一言ずつ。

小林 これからは、もっともっと外の情報も入れたり、個々の知識も向上させて常に新鮮な気持ちでやっていきたいな。みんなから愛される相談室!

高橋 検査部門は対応スタッフが1番多いから、誰が対応しても患者さんが同じスッキリ感を持って満足してもらえるようにしなきゃですよ。同じ知識あっても、話し方、接し方、情報提供の仕方は統一してく事を気をつけなきゃです。

保科 自分ではわかっていても患者さんに伝わりきれていない事があってはいけないから正確に分かりやすく、これは基本にしていきたい。

小平 知りたい事をきちんと把握、理解して答えていく事でモヤモヤをスッキリしてもらいたいです。

中島 まだまだ勉強不足だからこれからしっかりやっていきます。

渡辺 私の果たす役割は、カウンセリング本来のあり方に忠実に添う事だって感じてる。話してもらえる私を努力します。そしてスタッフみんながいい連携をとって常に目の前の患者さんにどんな私達であればいいのかと教えて頂きながらやっていく、そのスタンスを忘れないでいきたいと思います。

全員 これからも頑張ります。皆さんどうぞよろしくお祈りします!



左上より
小林・高橋
左下より
渡辺・中島・小平・保科



皆さんの質問に
お答えします

相談室での相談やメール相談の中から多いものを載せていくコーナーです。



Q、どうして初診で相談室に案内されるのでしょうか？

A、初めて治療を始める方や転院して新たに開始される方など、初めての病院にかかるというのは不安や緊張を伴う事が多いようです。その時に、当院には医療疑問の解決やメンタル支援のできる相談室がある事をお伝えし、今日来院していかげだったのかなど顔合わせもかねながら入室していただくことで今後の受診も安心してできるのではと思ってご案内させていただきます。

Q タイミングを持つのは先生に指示された一回だけでいいのですか？

A 医師の指示の通りの日に一回で十分です。よく雑誌などで3~4日おきに関係を持つと妊娠しやすい等と書いてありますが、指示のあった日にプレッシャーで関係が持てなかった場合の事を言われているのだと思います。

Q 自然周期変法と刺激周期ではどちらがいいのでしょうか？

A 体外受精の説明会を聞かれ、基本的にはその人に合った方法を選んで頂くのですがそれぞれのメリットデメリットは次のようです。自然周期変法は体への負担はあまりなく採卵は数個のみ。通院回数は少なく毎周期できます。刺激周期は毎日注射をするので副作用も出やすく体への負担は多いのですが卵の数は多く取れます。どうしても決められない場合はD2前に相談室に予約してご相談いただくか医師に直接お話し下さい。

Q 卵管が片方詰まっても妊娠は可能ですか？

A 反対側の卵管で卵が拾われる事もあるので妊娠は可能です。

information



看護師の中島です。治療全般について、お薬などの不安についての質問にお答えする部門のスタッフとして相談室に加わります。よろしくお願いたします。

9月~10月このといた外来の成績

【体外受精以外】

【体外受精】

妊娠 35人

〔IUIを含む〕

採卵 255人

胚移植 178人

妊娠 72人



編集



後記



小平:先日紅葉を眺めながら山に登りました。急な山道を登りふと顔をあげるとそこにはなんとカモシカが・・・ちょっと怖い顔だったので一瞬うごけなかったのですがなんとか写真に収めて満足。クマじゃなくて良かった。

高橋:最近毎週鍋をしています。それもほとんどきりたんぼ鍋。いろいろ研究してわかった事ですが、比内鳥のたれは上澄みだけではない濃縮倍率の高いものを使うとより美味しいですよ。この辺じゃ売ってないので通販でとりよせをしています。きりたんぼはたれ命!

保科:諏訪湖に白鳥などの渡り鳥がやってくる季節になりました。近所のトンカツ屋さんからパンの耳をもらってあげるのを楽しみにしています。いろいろな種類の鳥達がいるので眺めているとおもしろいですよ。

小林:月9ドラマにはまっています。ドラマを見ながらドキドキニヤニヤ。そして時計は10時になり、あんな純愛してときめきたいと話す私の前にあきれ顔した主人が。これが現実・・・はああ、思わず溜息でちゃいました。

中島:食欲の秋も終わりまもなく冬がやってくるのに私の食欲はとどまる所を知らず、チョコフリークの私には冬期限定物が待ち遠しい。そこで気になる体脂肪。病院で計ったらスーパーモデル並みだったのに家のだとその倍の数値。何故!

渡辺:その倍と言えば、中島さんの体脂肪の値と私の値の差はなんと倍だった。そういう私はスーパー非モデルですかああ。なんて冗談を言っている場合ではないよって、あたし。

さて、今回の記念増版の10号はいかがでしたでしょうか。倶楽部Kでは皆さんからの投稿をどしどしお待ちしております。皆さんと相談室で作っていく新聞です。感想、ご意見もお待ちしております。